

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれ力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくのだ

U-net通信

2016年9月
Vol.91

発行:NPO法人 地球環境共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 <http://www.unet.or.jp> 編集人:大山正治/発行人:比嘉照夫



環境美化活動を契機にEMの活用が広がる 長崎県雲仙地域

取材/大山

長崎県雲仙市は島原半島西部に位置し有明海と橘湾に面し雲仙岳等自然に恵まれ観光・漁業・農業が盛ん。スポーツでは、全国高校サッカーの名門で多くのプロサッカー選手を輩出している国見高校の地元でもある。また、早くからEMでの環境改善事業や有機農業で成果をあげている地域だ。

今号では、雲仙地域における環境改善事業のリーダーでU-ネット長崎県世話人でもある益田和子さんの案内で雲仙市のEM活動をご紹介します。

▼雲仙市多以良港埋立地で環境美化活動をしつつ、情報交換する雲仙市エコ活動連合会の皆さん、右から4人目が益田和子会長



▲雲仙市エコ活動連合会のEM廃油石鹸作り



◀雲仙市エコ活動連合会の活動拠点の一つ、市が無償貸与する元の消防小屋

行政との協働で成果を上げる雲仙市エコ活動連合会

雲仙市エコ活動連合会(益田和子会長)の環境改善事業は2007年、雲仙市に市民提案事業として認定されたことで活動が始まった。それ以前からEMによる生ごみ堆肥化、河川浄化、廃油石鹸作り等で活動していた各種市民団体をはじめ市内23団体約2千人で構成する全市的な組織だ。誇るべきことは、行政との協働で成果を上げていること。特に雲仙市環境基本計画の基本施策で「EM活用推進事業」が取り上げられるほど行政のバックアップが計られてい

る。市民・行政・事業者の協働による活動目標として、雲仙市エコ活動連合会が主体でEMによる生ごみリサイクルと環境浄化を推進するとある。

当連合会の定例活動としては、毎月2回行う多以良港埋立地における環境美化活動がある。これは長崎県からの依頼で実施しているボランティア活動で、火砕流の土砂を埋め立てた荒れ地にEMボカシ、生ごみ堆肥、活性液などで土壌改良したり雑草刈りなど。今では春には桜が咲き、菜の花が咲き、季節ごとにはそれぞれの花が咲き、徐々にで

はあるが有明海に映える景観形成に寄与しつつある。

会員でEM使用のカキ養殖で成果をあげている方がいるのでご紹介する。カキ筏に袋に入れたEMダングを吊るし、効率良く美味しいカキを育て好評を得ている。この方法でのカキ養殖が広がりを見せる傾向が出てきているようだ。

シンボルである大けやきが復活

雲仙市土黒小学校

雲仙市国見町の中央部にある土黒(ひじくろ)小学校は緑豊かで草花の栽培も盛んな学校、地域の方々からの協力も得て、地域になくってはならない小学校との評判だ。校庭にはシンボリックな直径2m超の大きなけやきの木がある。10年位前には枯れてしまうのではないかと心配になるほど木の勢いがなくなっていた。これを心配した雲仙市エコ活動連合会の方が、樹木医にもうダメと言われたが、EMで処置すれば助かると信じ、木の周囲にEM活性液などを撒き続けたら、1年ほどで樹勢が戻り始めた。現在は素晴らしく元気になり、地域の人々の誇るべきシンボルでもあり、夏場、児童たちにとって格好の日除けになっている。



▲雲仙市立土黒小学校のシンボルであるけやき
三浦誠司校長(左)と雲仙市エコ活動連合会の久山つや子さん



▲花がいっぱいの雲仙市立土黒小学校校庭

資源が有効活用され環境が改善されている

雲仙市大林養鶏場

雲仙市愛野町の山間にある大林養鶏場(代表 林田祥之氏)ではEM卵を毎日400個生産し、地元農協の直売所、自然食品店の他諫早市内の数店舗で販売されている。安心安全で美味しいので、すぐ売れてしまうほど大変好評だ。

また毎日、近くの病院や企業を廻って残菜や野菜くずを回収している。これは食品廃棄物とごみ焼却量の減少になり環境改善に寄与している。残菜や野菜くずに米ぬかや魚粉をEM活性液で混ぜ寝かせ発酵させて、鶏のエサにしているのだ。このエサとEM活性液の飲み水のおかげで、養鶏場内の土での放し飼いから発生する糞にも臭いが無く、近隣への悪臭苦情は全くない。

4つある養鶏場の周りには、春にはワラビ・セリ・ヨモギなど、夏にはタケノコ・スモモ・ドクダミなど、秋にはゲンノショウコウ・ハトムギ・ササゲ豆などの薬用にもなる有用な植物が自然栽培されている。更に、鶏糞を活用して100アールほどの畑でカボチャや玉ネギなど無農薬有機栽培され、近隣の方々に喜ばれている。

正しく、養鶏で関連する資源が有効活用され環境が改善されているのだ。



▲大林養鶏場で経営者の林田祥之氏(右)と同 喜子さん



▲大林養鶏場で使用されている各種飼料

第7回「海の日」全国一斉EM団子EM活性液投入

～ 集計途中結果報告 ～

取材／大畑

全国の団体・個人が多数参加して行われた全国一斉EM投入。U-ネット事務局に寄せられている報告書の途中集計結果と、写真の一部を紹介する。今年の海の日イベントは比嘉照夫教授が愛知県の堀川イベントに出席し、多くの参加した人たちとともに楽しく団子投げイベントを行った。最終のとりまとめ結果は次号に掲載する予定。集計へのご協力をお願いします。

	団体・個人数	参加人数	EM団子(個)	EM活性液(L)
本年8月29日現在	126	5,236	194,130	363,449



■愛知 名古屋市
伊勢湾・三河湾・堀川浄化の集い実行委員会



■岡山 倉敷市 U-ネット岡山



■鹿児島 指宿市 EM自然の里指宿



■栃木 足利市 足利水士里探偵団



■福島 伊達市
粟野地区自治会・エコクラブだて



■宮城 塩釜市 U-ネットみやぎ

i n f o r m a t i o n

事務局からのお知らせ

■今後の主要行事のご案内■

- 四国EMフェスタ2016 善循環の輪の集いin高知

日程 10月15日(土) 12:30~16:30 (開場 12:00)

会場 高知県土佐郡土佐町「フォーラム末広」(定員 300名)

- EMで発酵 BIG BANG! 善循環の輪大阪の集い

日程 10月22日(土) 10:00~16:00

会場 マイドームおおさか 3階 展示ホールF(大阪市中央区本町橋 2-5)



企業、協同組合、市民で広がる大阪の EM 活動

10月22日、EMで発酵 BIG BANG! 善循環の輪大阪の集いで一堂に

取材／針生

「EMで発酵 BIG BANG! 善循環の輪大阪の集い」が10月22日、大阪市で開催される。今年7月に名古屋で開かれた催しに続くもので、株式会社EM生活とU-ネットが共催して開く。今号では、この開催に向けて出展の準備をすすめる大阪の皆さんにEM活動の現状を伺った。

大阪の河川浄化活動やEM食材の盛んな取り組みは、これまでも本誌で伝えてきたが(2013年4月・74号)、淀川の浄化をはじめ、大阪府下各地で盛んに活動されていることが挙げられる。

最近の活動について、最初に枚方市で市内を流れる「天の川」の浄化に取り組む「天の川を清流にする会」の増本勝久代表に話を伺った。

モノづくりから農業生産法人設立、有機 JAS も取得

増本氏は、食品メーカーなどで使う手袋やマスク、エプロンなど安全衛生用品の開発・販売をおこなう会社を営み、近年ではミネラルを含んだ水とプラスチック原料を、水熱化学の理論を用いて反応させた特殊な加工技術であるエンバランス加工を開発した。その優れた劣化・腐敗を抑える力が支持され、業績を伸ばしている。



▲増本勝久氏

その一方、環境との共生、循環型社会の実現を企業目標に掲げ、省エネ・省資源、水質保全など環境への取り組みと、社会貢献活動でも七夕伝説にある枚方市の「天の川」をホテル舞う清流にしようと、社員全員参加で清掃・水質浄化活動をおこなってきた。

こうしたなか、2012年に農業生産法人(株) マックスファームを滋賀県甲賀市に設立し、農産物の生産、販売、輸出入、加工もおこなっている。農場では現在、安納芋2万



▲滋賀県甲賀市信楽町の農業生産法人(株) マックスファームの圃場。(写真提供: (株) マックスファーム)

5000本、さつま芋のシルクスイート2000本、紅はるか、納豆金時豆4000本、自然薯5000本のほか、ピーナツを栽培している。今年3月には、有機JAS認証も取得し、着実に生産を伸ばしている。

市民・行政・企業の協働で活動が広がる 天の川を清流にする会

いまから15年前、当時の枚方市長に「枚方一汚い」川の掃除を申し出たが、行政の担当窓口から猛反対されてス

タートした、天の川とその支流の新安居川の浄化活動。当初、社員(ホワイトマックス)中心に40~50人参加で始まった。天の川の本流の掃除は3か月に1回おこなっている。地域からは、都市銀行や地銀、信用金庫も含め70~80人が参加している。天の川を清流にする会も現在、80人程の正会員で、企業からも10社加入している。新安居川には毎月、EM団子400個、EM活性液500リットルを投入している。



10月の「EMで発酵 BIG BANG! 善循環の輪大阪の集い」には、エンバランスをEM生活のブースで出展の予定。またマックスファームからは、安納芋の芋ほり体験を検討中。そのほか、ピーナツの出品も予定している。

淀川・大阪湾浄化を協同組合で取り組んできた大阪府漁業協同組合

次に、大阪湾に面した此花区常吉の大阪市漁業協同組合(北村英一郎代表理事組合長)の本部を訪ねた。事業活動にEMを用いた浄化活動を掲げ、1960年代に工場排水などで水質が悪化した淀川の浄化に、淀川流域の市民と一緒に取り組んできた漁協だ。

大阪府漁協青壮年漁業者連絡協議会の会長である同漁協の北村光弘氏(U-ネット世話人)は、平成15年(2003年)大阪市漁協青年部の岡山県日生漁協への研修旅行での出会いから始まったEMの取り組みを語った。初めは水槽(170トン培養装置)で活性液を培養。道頓堀に年間1300トン、淀川に2500トンのEM活性液を投入。



▲北村光弘氏

団子も10万個投入した実績を持つ。EM活用による学校プール清掃に活性液を供給しており、当初、小中学校で平成18年(2006年)からおこなっているが、現在もNPO大海環境協議会により7校で継続している。10月の「EMで発酵 BIG BANG!」には、シジミつかみ取りと体験コーナーを予定しているほか、タコ飯やシジミ汁も味わえる。